

**新設道路の塩害・凍害対策にレジテクトRT-1とコンフィックスSM-9工法が採用**

本工事は長野県飯田市内の中央自動車道から分岐し、三遠南信（三河・遠州・南信濃）自動車道の北の玄関口、飯田市内を横断する道路の一部です。全区間が完成すれば南アルプスに続く山岳地帯と天竜川によって交通に難渋していた、県境を接する長野・愛知・静岡三県の連携を促進する道路となり、大きな期待が持たれています。

当該地域の各道路・橋梁等は冬季、降雪による路面凍結防止対策として融雪剤が頻繁に散布されます。この影響で既設コンクリートの劣化が著しく、その対策工事が順次実施されております。本工事は新設時からコンクリート劣化対策として、追加発注されたものです。

当該工区は平成20年2月工期となっており、保護塗装工事は厳冬の12月から2月と気象条件の最も厳しい時期に施工せざるを得ませんでした。発注者側は当初他工法を検討していましたが、冬季の施工では寒中養生が必要となり費用が増大し、施工日数も掛かり工期に間に合わない等々の条件によって、RT工法の提案を行なった所、承諾が得られました。

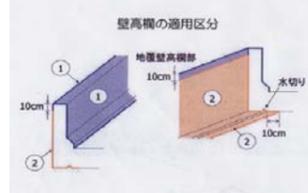
検査では大変良い評価を得ており、元請にとっては工期短縮、養生費の縮小とメリットが大きく、NETIS評価に対しても良好な評価を頂きました。

既述の通り当該工事は新設であることからRT-1工法を選択致しましたが、新設と言えども小さな空気あばたは必ず発生しており、吹付けのみでは解消出来ません。従ってパテ処理が必要となります。メーカー仕様ではパテ処理が不要となっておりますので、不要な工程は計上できず、企業努力となってしまいましたが、今後はRT-2工法で対応したいと考えております。

もう一方のSM-9工法は、SQSシステム工法協会の恒和化学工業株式会社が推進するコンクリート含浸剤塗布工法です。シリコン樹脂を配合した含浸保護塗料でコンクリートの美観を損なわずに表面を保護する効果が得られます。施工は原液を塗布するだけと至って簡単で、色むらも発生せず施工性の良い材料でした。同様の材料が各社から出ていますが、価格的にも他社と比較して競争力がありました。今後実績を重ねる事によって発注者への認知が期待出来るでしょう。

末筆になりましたが、当工法の更なる普及により会員各位の益々のご発展を御祈念申し上げます。

株式会社小宮山土木 環境事業部 取締役部長 山中 幸典



<b>工事概要</b>	
工事名	平成18年度 三遠南信10号橋PC上部工事
工事場所	長野県飯田市伊豆木
工期	平成19年12月21日～平成20年2月9日（当社工事）
工法	(1)レジテクトRT-1工法 (2)コンフィックスSM-9工法（恒和化学工業株）
施工部位	(1)RT-1 壁高欄内側及び天端、橋台橋座面 (2)SM-9 壁高欄外側、張出し下面
発注者	国土交通省 中部地方整備局 飯田国道事務所
施工者	株式会社小宮山土木
施工面積	RT-1： 942㎡ SM-9： 1,119㎡

**山形県鶴岡市の地下歩道防水工にCVスプレーが採用**

施工現場は、山形県の日本海側にある城下町鶴岡市の新興住宅街と工場地帯の隣接する場所で、新バイパス道建設に伴い地下歩道を併設します。今回の工事はこの地下歩道防水工事の施工です。

当初、設計は土木シート仕様で当社に見積依頼がありました。大都市以外ではなかなかこのような工事の無い地域ですが、レジテクトに加盟しているのにこのチャンスを見逃すことはないかと判断し、CVスプレー工法のPR活動を積極的に推進しました。

今回の工事は、東北地方整備局 酒田河川国道事務所の発注で、採用に当たっては、工事の提案とそれに伴うプレゼンが要求されておりました。CVスプレー工法はNETIS登録されており、工事の短縮ができ、気温に左右されないと多くの特徴があり、是非この現場で施工してみたいと現場所長が判断され、採用になったものです。実際の工事施工は、11月に地下排水ピット周辺の防水を行い、その後底部277㎡（保護モルタル30mm）の施工をし、完了しています。12月に入り天候不順が続いたので、元請に工区全体の上屋養生を行ってもらい、何とか底部の施工完了となりました。今後側頂部571㎡を2ブロックに分け、1月と2月に施工を段取り中ですが、折角採用して頂いたので、クレーム等の無いように十分管理を行い、実績として残して行きたいと思っております。

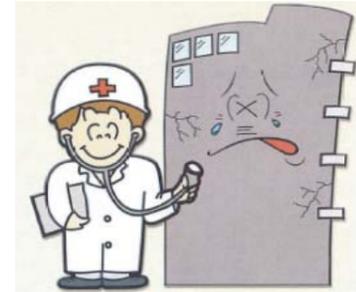
株式会社ナカムラ 取締役工事部長 渡部 富弥



<b>工事概要</b>			
工事名称	茅原地区構造物工事	発注者名	東北地方整備局 酒田河川国道事務所
施工場所	山形県鶴岡市茅原地内	防水施工	株式会社ナカムラ
工事時期	平成19年11月10日～平成20年2月10日	施工面積	848㎡
工法	CVスプレー工法（後施工）	ピット・底部	277㎡（CVスプレー及び保護モルタル 30mm）
施工部位	現場打ちボックスバルコニー（地下歩道）	側・頂部	571㎡（CVスプレー）
	地下排水ピット・底部・側頂部	当初設計	土木防水シート コムアシート t=3.2mm仕様

**BN加盟企業紹介**

**ニッソー技研株式会社 代表取締役社長 宮部 雄一郎**



建物は生き物です

コンクリート建造物の調査診断を行い、最良の補修・改修工法・建物の長寿命化を目指します。

**会社概要**

本社 愛媛県新居浜市  
 資本金 1,000万円  
 創業 昭和53年  
 許認可 建築・防水・塗装・左官  
 ・内装・とび・土工

当社は、四国のほぼ中央に位置する愛媛県新居浜市に本社を置いております。四国4県のどの県庁所在地にも1時間前後で行くことができる好位置にあります。

設立は、昭和53年で今年で30周年を迎えます。化学会社を脱サラした先代は、この業界に全く素人であったため、創業当初は、カタログや施工要領書を片手に見よう見まねで現場を細々とやっていたと聞いています。

また、新規参入の素人工事店にはなかなか仕事をいただけませんでした。そこで当時業界ではまだ補修工事は、半端なものとして嫌われていましたので、新築現場を諦め補修・改修を主に手がけることに専念しました。

地球規模での環境問題が云われ始め、建物もスクラップ&ビルドから、出来るだけ長寿命使用できるように再生すると云う考えに変わり、改修・補修・補強などの工事が飛躍的に増加し、ようやく自分たちの目指した方向が正しかったのだと確信したこのごろです。

現在では、総勢16名と調査部門の会社3名をあわせ19名で業務を行っています。建物の維持・保全・補強などの工事を通じてささやかながら社会に貢献することが出来れば我々の仕事に誇りと喜びを感じるものであります。

今は若手社員を中心に動いており、元気はありますが暴走することもあるかもしれません。レジテクト事業部、BN会員の皆様のご指導を仰ぎながら、日々邁進していきたく思っております。

今後ともよろしくお付き合いの程お願い申し上げます。

**SQSシステム工法協会「拡大幹事会」開催**

SQSシステム工法協会は1月23日、幹事会と2委員会、4専門部会、事務局の責任者が一堂に会し、拡大幹事会を開催しました。

各部門が平成21年3月末までの活動方針を発表しました。各部門がそれぞれの分野で必要と思われるテーマを提示し、図や写真を用いて、作業手順からタイムスケジュール、必要資金の概算に及ぶまで説明が行われました。

説明後の質疑応答では、マーケットと施工現場に精通した専門家同士の意見交換で盛り上がり、大変熱心な発表会となりました。

最後に幹事長は「今回の発表内容を基に部門間の調整を図り、SQS工法の普及拡大が会員の企業業績に貢献する方策を打ち出していきたい」と今後の協会の方向性を示唆しました。



各部門の問題を真剣に検討する参加者

**各部門の発表要旨**

**広報委員会**

- 1, 全国を7地域に分け、各地に地域広報委員を組織化し、地域に密着したSQS工法の普及活動の促進
- 2, 協会ホームページの内容を見直し、充実化
- 3, その他フェア出展、カタログ、マニュアル、広報誌の検討

**地下防水部会**

- 1, 標準設計マニュアルの改正
- 2, 建設物価記載内容の改正（部位別に市場再調査）

**水利系部会**

- 1, 過去の施工現場の追跡調査と改善策の提案
- 2, 有機系水路工法の確立（高圧洗浄・下地処理材・端部処理）
- 3, 無機系水路工法の確立

**防食部会（防食市場の顧客要望を把握し、差別化工法を創出）**

- 1, 仮称リナック防食工法の確立（人孔、管渠向け）
- 2, アンチオゾン防食工法（上下水道処理槽向け）
- 3, その他（防食テープの開発、海洋構造物の腐食対策等）

**コンクリート保護部会**

（SQS工法に無機材料技術を導入、下地処理から表面被覆までシステムとして工法を開発）

- 1, 下地処理材の製品化、システム化
- 2, 鉄道関連に適応する工法の確立
- 3, 無機材料の土木分野への普及（トンネル内装、落書き防止）

**技術運営委員会**

- 1, 性能規定型への移行はSQS工法は普及のチャンスとしたい。
- 2, 設計施工マニュアルの現場対応型への見直し
- 3, クレーム事例をまとめ、改革・改善工法の創造